

望岳山荘

中嶋権雄

海外に出ているときを除いて、例年、八月は信州で過ごすのに、今年には東京での仕事を立て込んで、松本へ帰るのが遅れてしまった。

来週からはまた、日仏共同研究の打合せとデーンマークで開かれるヨーロッパ歴史・思想学会での「ヨーロッパと中国」についての報告のため出張が続くので、いま、この望岳山荘にきている週末は、私にとってかけがえのないものである。

スの山並みが、その緑の山肌や樹々の茂みまで、すぐ近くに迫って来るような感じで遠望される。

子供の頃、浅間温泉の湯治旅館の部屋から眺めた「西山」が、やはり天気の良いとき、とても近くに感じたときの光景がはつきり想い起される。

こうして私はいま松本市の南東、神田坂下北山の望岳山荘のヴェランダから、北アルプスの運筆を見ているのだが、正面に常念岳、その左側に槍ヶ岳が見え、蝶ヶ岳、大滝山と常念山脈が続いて、その手前の黒々と大きい半円形の鍋冠山やその山裾の小さな室山も望まれる。

岳があって、次にいわゆるアルプス銀座の稜線が続き、そのギザギザの先端に燕岳、谷を隔てて有明山(信濃富士)がくつきりと雲間に浮かんでいる。その右側には銀岳、蓮華岳があり、遠くに針ノ木岳、高瀬の谷をまたいで爺ヶ岳、鹿島槍の南北の山頂、そして五竜岳までがここから見える。その北の唐松岳や白馬三山は、この地点からは見えない。

北アの名山と並み

私が名前を知っている山々で、そのほとんどを私は何回も登っているのだが、実は視界の三分の一近く、つまり大滝山から乗鞍岳までの前山の名前がわからない。望岳山荘のみならず、松本市の大部分の地点から見て、ほぼ同様の視界であろう。

一方、すぐ目の前の弘法山の右手には、今年に残雪の多い乗鞍岳が島々谷の奥に盤踞している。以上が私の望岳山荘から望むことができ、

私に記載がなかった。島々谷の右側の高い山並みは安房峠から焼岳に連なる峯々かと思っし、位置からすれば、上高地の梓川の右岸に六百山とともに並ぶ霧沢岳かもしれないが、それは松本からは見えないはずである。

平坦な山頂が小嵩沢山なのかもしれない。だとすれば、その南の三角の尖った峯は、島々谷に近い大明神山だろうか。

私に記載がなかった。島々谷の右側の高い山並みは安房峠から焼岳に連なる峯々かと思っし、位置からすれば、上高地の梓川の右岸に六百山とともに並ぶ霧沢岳かもしれないが、それは松本からは見えないはずである。

大滝山の手前の小富士のような峯は黒沢岳か金松寺山かとも思う。昨年の夏、徳本峠への途中の岩角留小屋に滞留したとき、その近くの三角点のことを聞き、このあたりでもっとも高い山頂は標高二、三八七メートルの小嵩沢山で、殆んど人跡未踏のその山頂からは、木の茂りを透かして松本平が見えるとも聞いたので、大滝山の稜線が切れたところを南へ行った前山の奥の

だが、松本平と槍ヶ岳とか安曇野と常念岳というよう有名な山ではない南部の無名山並みについては、視界のほぼ三分の一を占めて、松本市民の目に日常的に映っていないから、その存在が意外に気づかれていないのではなからうか。これからは、それらの山々の名前も、松本案内などには是非記載してほしいものである。

(東京外語大教授)